

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3873100162
法人名	医療法人北辰会
事業所名	グループホーム小松の里
所在地	愛媛県西条市小松町妙口甲1番地1
自己評価作成日	2009.12.25

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 ※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成22年 2月 3日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

※3ユニットの合同行事の取り組み(開設記念日&雑祭り・お花見・ソーメン流し・夏まつり・敬老会・体育館貸切での運動会・他施設の菊見・クリスマス会・餅つきや慰問による歌謡ショー等)
 ※中学生・大学生の実習受け入れ
 ※毎月の日常報告書の送付
 ※個々にアルバムを作成している。
 ※毎月、外出を兼ね外食(秋頃よりインフルエンザ流行のため、外食は控えていたが仕出し料理等で店の味を楽しんだ。・個々に希望で買い物・ドライブに行っている。)
 ※各委員会の取り組み(行事・レク・広報委員会、園芸委員会、環境委員会、栄養委員会)等ある。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設6年目のホームであり、毎回職員全員で自己評価に取り組んでいる。管理者は、自己評価を通じ、ホームのサービス内容、職員の介護力等がレベルアップしていることを実感している。中学校の福祉体験授業を通じての交流から、毎月のホームの草引きボランティアという形に発展している。運営推進会議を通じて自治会との協力関係がより積極的に行えるよう取り組みたいと考えている。家族には毎月利用者の具体的な様子等の詳細な記録を送り、できるだけ関係が途切れないように努めており、今後も家族との交流の機会が増えるようますます工夫すると意欲的に取り組んでいる。医療法人が母体であり、地域の医療・福祉に熱心に取り組んでいるため、利用者の状態に合わせた早期の住み替え等の連携もできている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム小松の里

(ユニット名) 東通り

記入者(管理者)

氏名 平塚 真由美 (津島 美由紀)

評価完了日 平成 22 年 12 月 25 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 運営理念としては、ユニットの目の届くところや名札の裏に記載しているが、具体的にホーム独自の「温かく、さりげなく 気くばり 目くばり」を心がけとして、朝・夕の申し送り時に復唱し同じ気持ちで支援できる様取り組んでいる。</p> <p>(外部評価) 管理者は、「温かく、さりげなく、気くばり、目くばり」という開設当初からの理念をあえて変えずに大切にしており、その思いを職員も共有してケアにあたっている。ユニットごとに利用者の心身の状態等に違いはあっても、理念に基づいたケアができるよう各ユニットで取り組んでいる。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 近隣の中학생や高校生等の体験学習を受け入れている。また、中学校・小学校の運動会や文化祭、地域の夏祭りに参加したり広報誌を配布したりホーム独自のお祭りの案内状を近隣に配布し参加呼び掛けている。</p> <p>(外部評価) 中学生の福祉体験学習の受け入れを通じて、庭の草引きのボランティアとして来てもらえるよう発展しており、利用者も楽しみにしている。また、毎年恒例の夏祭りは地域の方にも案内し、多数の参加を得ている。運営推進会議を通じて自治会行事等の情報も得るようにしているが、自治会活動が活発でなく参加には至っていない。</p>	地域全体が高齢化しているためもあって自治会活動も少なく、地域との交流機会は多いとは言えない。運営法人は医療機関と福祉施設を運営しており、代表者、管理者、職員の経験を活かした介護教室を開催する等、地域福祉の拠点として地域の活性化に貢献できるような取り組みを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げていく認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 2か月に1回ホーム周辺のごみ拾いや最近、慰問（歌謡ショー）の時に近隣の老人会の方々を招待している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 3か月の割合で実施しホーム取組の報告や行事にも参加していただき、利用者の様子等も見ていただいている。また、意見や提案はサービスに活かせるよう努めている。(利用者も3名参加している)	
			(外部評価) 自治会長、公民館長、民生委員、中学校教諭、介護相談員、地域包括支援センター、家族、利用者、管理者、ユニット主任等が参加し、3か月に1回開催している。参加メンバーの変動はあるが、メンバー構成も多種にわたり率直な意見交換ができており、避難訓練についての提案や公民館行事へのお誘い等、今後活かせる話し合いがなされている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 月に1度の介護相談委員の来訪や西条市の介護サービス向上連絡会にホーム長と主任が参加。また、運営推進会議に包括支援センターの職員さんにも参加していただき意見交換し協力関係に取り組んでいる。	
			(外部評価) 市のサービス向上連絡会に参加して情報交換したり、毎月介護相談員の訪問を受け、サービス向上の取り組みを積極的に行っている。管理者は市担当者と密に連携しており、協力関係が築かれている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) ホーム長、全職員は、身体拘束をしないケアの研修にも参加し理解している。玄関・ユニット・居室のカギ等は掛けず自由に出入りできるケアに努めている。	
			(外部評価) 玄関に出入りを知らせるチャイムを設置しているが、利用者の外出を拒むものではなく、外出しようとする利用者には職員が同行し、見守りながら対応している。身体拘束をしないケアについて、ホームの方針を管理者及び職員は十分理解した上で、安全面に配慮しながら自由な暮らしを支えるよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 研修や勉強会に参加し学ぶ機会を持っている。個々に気をつけたケアに当たっているが、利用者に対し言葉掛けがキツイ時が多々ある。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修や勉強会に参加する機会があり知識を深めている。資料等は玄関ロビーの目のつきやすい所に置き必要な方には説明出来るように努めている。実際に権利擁護を活用している方がいる。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時に十分な説明し不安や疑問の問い合わせにも納得してもらえる様に努めている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 利用者からの言葉は、いつも耳を傾ける姿勢でいる。利用者や家族の意見は尊重し意見や不満の声が上がればホーム長にも報告しユニット会や申し送り時に話し合いの場を持ちケアに活かせる様に努めている。介護相談員の意見も参考にしている。 (外部評価) 運営推進会議に利用者及び家族にも参加してもらって意見を聞いているが、家族の参加者は1名と少ない。近隣地区からの利用者がいないためか面会回数が少ない傾向にあるため、利用料を毎月家持ってきてもらい、その際に意見や要望を聞くようにしている。行事の案内、運営推進会議への出席等について声かけし、家族の参加を促している。	開設当初は家族会もあったが、徐々に参加者が減少し、現在は休止状態にある。管理者も家族との関係についての取り組みを課題として感じており、皆で意見を出し合って活発な交流ができる取り組みを望みたい。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) いつでも意見や提案を聞いて貰える体制である。 良い提案は採用しケアや業務に取れ入れて貰っている。 (外部評価) 職員の意見や提案等は、毎月の法人幹部会で管理者から伝える機会がある。全職員が年間目標を立て、自己評価して給与等に反映させている。職員から相談等があれば、個別面談にて対応しており、話しやすいよう配慮している。「行事・レクリエーション・広報・園芸・環境・栄養」と全職員が各委員会を担当し、計画・実施に取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 全職員は、年1回目標シートを作成し上期・下期に分けて自己評価&ホーム長との面談において各自が向上心を持って働ける様に努めている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 入職年数や経験年数にあった研修への参加やホーム独自の勉強会・関連病院での研修会や自らの意欲で受けた研修を選択し勤務内で参加している。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 母体である病院の勉強会の参加や関連グループ施設との交流や同業施設との広報誌のやり取りの交流ができています。また、今年初めて相互研修にも参加した。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入所申し込み時や入所以前に本人様と直接面接し、よく話を聞き本人様の気持ちを受け止める努力をしている。 入所後は、より信頼関係が築けるよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入所申し込み時や入居面接時に、よく話を聞く様に努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 申し込み時や面接時に本人様と家族に話をよく聴き、見極めを行った上で判断している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 一緒に生活する中で喜怒哀楽を共にし支え合う関係作りに努めている。	
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 行事時に参加してもらい一緒に過ごしてもらおう働きかけをしている。面接時には、本人様・家族と共に談話しながら関係の構築に努めている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 一部の方ではあるが友達や馴染みの方の面会がある。知り合いの方への手紙の投函にスタッフが一役かっている。暖かくなってからの話になりますが、利用者の希望である大三島の大山祇神社に行く予定である。 (外部評価) 開設以来、長期にわたりホームでの生活を送っている利用者も全体の約3分の1となっており、ユニット間の交流を通じて馴染みの関係ができ、日常的に行き来している。利用者から希望があれば墓参り、買い物等にも可能な限り対応している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 気の合った者同士の席だったり、行事時にはテーブルをつけ合わせ席を自由に、またスタッフが仲に入り利用者の話の輪が広がるように働きかけている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退所先の施設や病院にサマリーで身体状況やホームでの生活の様子を報告し、入院した方には、個人的にお見舞いに行っている。必要に応じ相談や支援に努めている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 入所前に本人様や家族に希望を聞いたり、入所してからは、入浴介助中の1対1の会話の中より希望や意向の把握に努めている。困難な方には、顔の表情や家族の意向を聞きながら支援に努めている。 (外部評価) 職員は日々の関わりの中で把握した利用者の特徴的なできごとや意向・希望等を「オンリーワンメモ」として記録し、毎月のユニット会で意見を出し合い、共有に努めている。利用者の担当職員は時々ローテーションして担当を変え、ケアの方向性が偏らないよう配慮している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 家族や入所前の施設などからの情報を参考にしている。また、本人様との会話の中から把握に努めている。センター方式の活用が十分できるようにしていきたい。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) センター方式の活用が1番だと思うが、記入が十分でない。書き込みを十分に活用して行くよう努力する。日々の関わりで観察、生活記録やオンリーワンメモを活用して把握に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 月1度のユニット会にて話し合い、利用者の現状や本人様や家族の意向をふまえ、利用者に向けた介護計画の作成や見直しを行っている。 (外部評価) 朝・夕にユニット合同の申し送りを行い、全職員が利用者把握できるようにしている。利用者の担当者は、サービスの実施状況を「ケア行動実施記録・特記事項」として毎月家族に報告し、状態を把握してもらっている。その上で3か月に1回介護計画書を送り、意向や希望を記入してもらって次の計画に反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) ケア行動チェック表や生活記録表・熱計表&オンラインワンメモの記録から実践、見直しに活かしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 柔軟な支援を行い、対応している。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 中学生のボランティア清掃・民生委員、消防署の指導による消防訓練、警察の協力による交通安全教室の開催など地域資源と協働しながら支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	<p>(自己評価) 入所前のかかりつけの病院の確認を取り入居後も変わ ることなく往診や受診の支援している。</p> <p>(外部評価) 利用者及び家族の希望を聞き、入居後も変わらずかか りつけ医の受診・往診を支援している。管理者は看護 師であり、健康管理も細かいところまで配慮してい る。母体の医療機関が現在移転建設中で、完成すれば ホームにより近くなるため、利用者及び家族は健康 面・医療面でより安心できる。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	<p>(自己評価) ホーム長が看護師でありスタッフにも看護師がおり情 報や気づきを報告、困った時は、母体である病院の主 治医や看護師から十分に相談や指導を受ける事が出来 ている。</p>	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価) 入院時は、病院との情報交換を頻繁に行っている。 入院中も時間の許す限り面会に行き、容態の把握に努 めている。</p>	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価) 今のところターミナルケアの実施はしていないが病状 悪化の際はホーム長・家族・主治医が十分な話し合い し全員で方針を共有している。今後の状態の変化に備 え他施設への申し込みされている方もいる。</p> <p>(外部評価) ホームの看取りの指針について、入居時に本人及び家 族に説明している。可能な限り支援に努めているが、 母体法人が医療・福祉の両事業所を運営しているた め、その都度家族等と相談しながら、本人の状態に あった住み替え等についても法人内で連携しながら検 討している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 年1回、全職員が消防署の救命講習に参加、また各研修や勉強会に参加し学んでいるが、急変時学んできた事が活用できるかどうか?である。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 災害発生時の避難は、年2回の避難訓練にて訓練し周知している。また、ホームからの避難場所の確保も各機関の指導のもと確認している。 地域の自治会や消防団への協働は準備段階である。 (外部評価) 市を通じて他事業所への利用者受け入れ等を取り決めている。年2回、自主的及び消防署立ち合いの避難訓練を行い、利用者も参加して非常災害時に備えている。運営推進会議にて、地域との協力体制について何度か議題に取り上げて意見交換し、協力体制を築けるよう準備している。	運営推進会議の中で、地域の方から自治会等との合同の避難訓練等についての提案もあるとのことで、今後の取り組みを期待したい。また、ホームの近所に住む職員も数名いるため、緊急時の連絡体制を現実的なものができるよう実践に備えた訓練等を行うことを望みたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) プライバシーの保護や個人情報の保守には十分気をつけているが、時として言葉掛けに尊重が足りない時がある。 (外部評価) 親しみを込めた会話も聞かれるが、利用者の人格を尊重した言葉かけに気をつけている。利用者の気持ちに寄り添うケアを辛抱強く行う姿も見られ、利用者を理解し「オンリーワン」な対応ができていることが伺える。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 自己決定出来るように、その人に合った声かけをしている。自己決定できない方には、じっくり表情を見ながら思いを理解できる様、努力している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 時として、業務を優先したケアになっている時もあるが 本人様の思いを考慮し、穏やかに過ごしてもらえる様に「温かく、さりげなく 気くぱり 目くぱり」の支援に努めている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 散髪は家族と行く方もあるが、ほとんどの方が近隣の理容・美容院に来てもらっている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 好き嫌いを把握し、利用者と一緒に同じテーブルで会話しながら楽しく食事が出来る様に支援している。 下準備等は一緒にすることもあるが、スタッフがほとんど作っているのが現状である。 (外部評価) 栄養委員会に所属する職員が各ユニット2名ずつおり、メニュー等を検討している。行事メニューでは仕出し弁当を取ったり、手作りの弁当を中庭で食べるなど、利用者が食事を楽しめるよう工夫している。また、利用者と一緒におやつを作り、昔を思い出しながら楽しんで参加できる機会を作っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 毎日の食事摂取量や水分摂取量をチェックし記載し把握している。また、各自が好みの飲み物を10時・15時のお茶の時間や夕食後のひと時に出すようにしている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、口腔ケアを行っている。 義歯の方は、就寝前に取り外し毎日、洗浄液につけている。中には拒否する方もいるが、時間をおいて実施できるように努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<p>(自己評価) 排泄チェック表を活用しタイミングよく排泄できるように支援している。声かけに応じられない時は、くどくならない様に時間を置き支援している。</p> <p>(外部評価) タイミングをみて声をかけたり、頻尿の薬の効き方を確認したり、排泄の回数・量等から家族にオムツの使用量について説明するなど、排泄チェック表を活用して個別の支援に努めている。夜間も睡眠を妨げないよう配慮しながら支援している。</p>	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<p>(自己評価) 朝食時に個々にあったセンナ茶の飲用と適度の運動で便秘予防に取り組んでいる。</p>	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	<p>(自己評価) 毎日、入浴していただける様に支援している。体調に合わせて、その方に合った入浴を心掛け、入浴を嫌がる方には、電話作戦等が入ってもらえる様に工夫している。</p> <p>(外部評価) 介助が必要な利用者の場合は、安全を確保するため2名体制で入浴を支援している。入浴拒否があっても、足浴や清拭等、利用者の状態に合わせて柔軟に対応している。身体的に重度の状態になるとホームでの入浴が困難になるということは、入居の際に利用者及び家族に説明して理解を得ている。</p>	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<p>(自己評価) 就寝を無理に促すのではなく、寝つきの悪い方には、リビングでテレビや本など見ながら途中スタッフとお茶等も摂り眠気がくるまで過ごしていただいている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 個々の処方箋は、ファイルにて目の付きやすい所に保管している。 症状に変化があれば報告し、服薬の前に本人様の薬か確認、服薬時・服薬後にも確認と3度の確認をする様に努めている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価)	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 月1度はユニット全員で外出&外食に出かけている。 (インフルエンザ流行時は自粛していた。) 希望があれば、買い物等、その都度、対応している。 暖かくなれば、利用者の希望叶える為、大三島の大山祇神社へ行く予定である。	
			(外部評価) ホームの中庭は十分な広さがあり、レクリエーション等を楽しんでいる。各委員会が合同で企画した運動会、夏祭り、外食、ホーム周辺の清掃活動等もあり、また地域の行事にも参加して、利用者が日々楽しい時を過ごせるよう取り組んでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) ご自分で管理できる方は3・4人の方が持っておられます。その方達の中には自分で使わなくても持っているだけだ安心している方も1人います。その他の方は、買い物を希望されてもホーム立て替えでしていません。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 利用者の希望があれば、その都度でんわの支援していますが、ご本人が番号を押すことはしないのでスタッフが支援しています。また、手紙の投函の支援もしています。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) リビングには、レースのカーテンで遮光、テレビやCDの音量も考慮し明るく居心地の良い雰囲気づくりに気をつけている。 また、月ごとに手作りカレンダーを張っている。	
			(外部評価) 管理者はホームの設計段階から関わり、経験を活かした工夫が取り入れられている。隅々にまで掃除が行き届き、清潔で居心地が良い。前庭・中庭共に広く、日当たりも良く静かである。今冬はインフルエンザの流行もあり各ユニットに空気清浄・加湿器を設置している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) ホーム内のあちこちに、ちょっと座れるように椅子やソファを中庭にはベンチを設置している。 和室には、こたつも置いているが利用者の方はあまり入ろうとしない。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) テレビや馴染みのタンス、テーブルや中には仏壇を持ってきている方もいる。また、家族の写真や毎年の母の日のプレゼントを飾り自分なりの工夫をしている方もいる。（新しい年になりスタッフが明るく可愛いカレンダーを各居室に貼ってあげた。）	
			(外部評価) 各居室に洗面台、クローゼットが設置され、すっきりと整理されている。状態にあわせて介護用ベッドも選択できるよう準備されている。利用者はそれぞれ馴染みのものを持ち込んでいる。居室に施錠したい利用者の希望にも対応している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 各居室には、利用者に分かるように写真入りの氏名を貼り混乱を生じないように配慮している。トイレ・浴室等も分かりやすく目印している。	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3873100162
法人名	医療法人北辰会
事業所名	グループホーム小松の里
所在地	愛媛県西条市小松町妙口甲1番地1
自己評価作成日	2009.12.25

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 ※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成22年 2月 3日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・介護する側、される側の区別をなくし、同じ立場で接するようにしている。 ・問題が生じた時は、チームスタッフで議論を交わし、納得がいくまで話し合っている。 ・レクや行事の時は、職員が力を入れ工夫をこらし計画を立てている。 ・月一度は外出し、利用者と共に楽しむようにしている。 ・どのような場面においても、利用者本位のケアを心掛けている。 ・スタッフの中に芸人がいる。 ・たまに利用者と一緒に議論を交わし、口論する事もあり、更にお互いの理解が深まる事がある。 ・家族さまと本人の声を聴き、思いを把握するよう接している。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>開設6年目のホームであり、毎回職員全員で自己評価に取り組んでいる。管理者は、自己評価を通じ、ホームのサービス内容、職員の介護力等がレベルアップしていることを実感している。中学校の福祉体験授業を通じての交流から、毎月のホームの草引きボランティアという形に発展している。運営推進会議を通じて自治会との協力関係がより積極的に行えるよう取り組みたいと考えている。家族には毎月利用者の具体的な様子等の詳細な記録を送り、できるだけ関係が途切れないように努めており、今後も家族との交流の機会が増えるようますます工夫すると意欲的に取り組んでいる。医療法人が母体であり、地域の医療・福祉に熱心に取り組んでいるため、利用者の状態に合わせた早期の住み替え等の連携もできている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない			

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム 小松の里

(ユニット名) 西通り

記入者(管理者)

氏名 愛久澤 剛史(津島 美由紀)

評価完了日 平成22年 1月 25日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 「温かく、さり気なく、気配りと目配り」と言う理念を掲げており、名札の裏やホーム内の目の付く所に掲示しており、朝、夕の申し送り時において復唱し、全職員が共有している。</p> <p>(外部評価) 管理者は、「温かく、さりげなく、気くばり、目くばり」という開設当初からの理念をあえて変えずに大切にしており、その思いを職員も共有してケアにあたっている。ユニットごとに利用者の心身の状態等に違いはあっても、理念に基づいたケアができるよう各ユニットで取り組んでいる。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 近くの中学校との定期的な体験学習や、ホームのイベント時には案内状を近隣の住民の方々に配布して呼びかけ、毎回賑わっている。また、回を重ねる毎に交流も深まり、楽しみにして下さっている方も多い。</p> <p>(外部評価) 中学生の福祉体験学習の受け入れを通じて、庭の草引きのボランティアとして来てもらえるよう発展しており、利用者も楽しみにしている。また、毎年恒例の夏祭りは地域の方にも案内し、多数の参加を得ている。運営推進会議を通じて自治会行事等の情報も得るようにしているが、自治会活動が活発でなく参加には至っていない。</p>	地域全体が高齢化しているためもある自治会活動も少なく、地域との交流機会は多いとは言えない。運営法人は医療機関と福祉施設を運営しており、代表者、管理者、職員の経験を活かした介護教室を開催する等、地域福祉の拠点として地域の活性化に貢献できるような取り組みを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げていく認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 2ヶ月毎にホーム周辺のゴミ拾いや、ホームで行う歌謡ショーには近隣の老人会の方達を招待している。イベント時には近隣住民の方達の参加を呼びかけ、利用者と共に楽しんで頂いている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 年4回開催し、ホームの取り組みの報告や、新たな取り組みの結果など話し合っており、会議の場での提案事項や、課題はサービスの向上に活かしている。	
			(外部評価) 自治会長、公民館長、民生委員、中学校教諭、介護相談員、地域包括支援センター、家族、利用者、管理者、ユニット主任等が参加し、3か月に1回開催している。参加メンバーの変動はあるが、メンバー構成も多種にわたり率直な意見交換ができており、避難訓練についての提案や公民館行事へのお誘い等、今後活かせる話し合いがなされている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 月一度の介護相談員の訪問があり、利用者との話し合いの場がありサービスの質の向上につなげている。運営推進会議では、市の担当者も出席もあり、様々な提案や意見の交換を行っており、それらもサービスに繋がっている。	
			(外部評価) 市のサービス向上連絡会に参加して情報交換したり、毎月介護相談員の訪問を受け、サービス向上の取組みを積極的に行っている。管理者は市担当者と密に連携しており、協力関係が築かれている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 勉強会や各研修にて、理解と知識を深めており、身体拘束をしないケアを実践している。鍵は夜間安全上、玄関の施錠のみで、ユニット内、居室はいつでも出入りできる様にしている。	
			(外部評価) 玄関に出入りを知らせるチャイムを設置しているが、利用者の外出を拒むものではなく、外出しようとする利用者には職員が同行し、見守りながら対応している。身体拘束をしないケアについて、ホームの方針を管理者及び職員は十分理解した上で、安全面に配慮しながら自由な暮らしを支えるよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 勉強会や各研修にて学ぶ機会があり、知識を深めている。たまに声かけが乱暴になる場合があり、職員の意識が足りない場面がみられ、注意してケアしていく必要がある。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修にて学ぶ機会があり、実際に成年後見制度を活用している方もいる。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) サービス利用前より十分に説明、理解の上での契約を行っており、解約時も同様である。改定等の場合は、その旨を説明し、確実な同意のもとでのサービス利用を実施している。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 利用者、家族の意見は尊重しており、理解に努めている。自己主張困難な方にも、表情や仕草から読み取る努力をしており、介護相談員の協力もあり、外部者と話せる機会がある。 (外部評価) 運営推進会議に利用者及び家族にも参加してもらって意見を聞いているが、家族の参加者は1名と少ない。近隣地区からの利用者がいないためか面会回数が少ない傾向にあるため、利用料を毎月家持ってきてもらい、その際に意見や要望を聞くようにしている。行事の案内、運営推進会議への出席等について声かけし、家族の参加を促している。	開設当初は家族会もあったが、徐々に参加者が減少し、現在は休止状態にある。管理者も家族との関係についての取り組みを課題として感じており、皆で意見を出し合って活発な交流ができる取り組みを望みたい。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価) 意見を伝え、聴いてもらっており、良い提案は採用し実行している。職員間で解決出来ないことは、管理者に報告、相談し意見を求めている。</p> <p>(外部評価) 職員の意見や提案等は、毎月の法人幹部会で管理者から伝える機会がある。全職員が年間目標を立て、自己評価して給与等に反映させている。職員から相談等があれば、個別面談にて対応しており、話しやすいよう配慮している。「行事・レクリエーション・広報・園芸・環境・栄養」と全職員が各委員会を担当し、計画・実施に取り組んでいる。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価) 職員は、個々に年間目標を設定し、勤務意欲がもてる様に取り組み、管理者による定期的な面接で勤務状況や勤務態度を見極め給与水準や査定を行っている。</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価) 研修計画に添って、段階に応じて研修を受けている。また、ホームでの独自の勉強会や、各種団体の研修参加など勤務内で参加できている。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価) 母体の病院での勉強会の参加や関連施設でのイベントの往来などの場にて交流できている。新人職員を対象にした、他グループホームとの相互研修があり、参加職員は勉強会にてその内容を報告している。</p>	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価) 入所以前より、本人と直接面接行い、話しを聴き本人の気持ちを受け止める努力をしている。また、出来るだけ印象に残るよう接し、入所後は更に信頼関係が築けるよう努めている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入所以前より、家族と面接行い詳しく話を聴くように努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 申し込み時や、面接時に家族と本人から詳しく話を聴き、見極めを行った上で判断している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 喜怒哀楽を共に感じ、傍に寄り添えられる関係作りに努めている。介護する側、される側の関係ではなく、共に生活しているもの同士という関係の構築に努めている。	
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) イベント時には参加してもらい、一緒に過ごしてもらえるよう働きかけている。面会時には本人と家族と共に談話しながら関係の構築に努めている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 知り合いや馴染みの人達も面会に来ており、関係が継続出来ている人もいるが、全ての方ではなく、一部の person となっている。墓参りを希望され、職員が支援のもと。行かれる人もいる。 (外部評価) 開設以来、長期にわたりホームでの生活を送っている利用者も全体の約3分の1となっており、ユニット間の交流を通じて馴染みの関係ができ、日常的に行き来している。利用者から希望があれば墓参り、買い物等にも可能な限り対応している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 仲の良い人同士一緒に座ったり同じ時間を共有している。男性が独りであり、孤立しがちであるが、職員が隣に座ったり共に食事を摂ったりして、孤立しないように支援している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 入院された方には、個人的にお見舞い行ったりしている。退所先の施設や病院にはサマリーで身体状況やホームでの生活の様子を報告し、情報を提供している。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 意向を聴き気づいた事は、オンリーワンメモに記入し把握に努めており、意思表示困難な方についても家族からの情報を求め、把握に努めている。 (外部評価) 職員は日々の関わりの中で把握した利用者の特徴的なできごとや意向・希望等を「オンリーワンメモ」として記録し、毎月のユニット会で意見を出し合い、共有に努めている。利用者の担当職員は時々ローテーションして担当を変え、ケアの方向性が偏らないよう配慮している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 家族からの情報や、以前居た施設からの情報も参考にしている。掘んだ情報はセンター方式に記入し、活かしている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 一人ひとりの出来ること、出来ないことの把握に努め、オンリーワンメモ、センター方式を活用し職員全員が情報を共有、ケアに活かしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	<p>(自己評価) 入所以前からの情報も含め、月一度のユニット会にてチームスタッフの意見だけでなく、家族、本人の意向をふまえ、利用者の立場に立った介護計画の作成、見直しを行っている。</p> <p>(外部評価) 朝・夕にユニット合同の申し送りを行い、全職員が利用者把握できるようにしている。利用者の担当者は、サービスの実施状況を「ケア行動実施記録・特記事項」として毎月家族に報告し、状態を把握してもらっている。その上で3か月に1回介護計画書を送り、意向や希望を記入してもらって次の計画に反映させている。</p>	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	<p>(自己評価) 日々の生活記録、オンリーワンメモの活用にて見直しに活かしている。また、利用者が何気なく発した言葉や行動から、その人の思いの把握に努めている。</p>	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	<p>(自己評価) 柔軟な支援を行ない、対応している。</p>	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	<p>(自己評価) 中学生のボランティア清掃や、消防署の指導による消防訓練、警察の協力による交通安全教室の開催など地域資源との協働を働きかけている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	<p>(自己評価) 母体の病院の全面的な協力のもと、定期的な医師の往診を行っている。その他、歯科医の往診や以前より継続しての病院の受診を希望される方には、家族の協力のもと支援している。</p> <p>(外部評価) 利用者及び家族の希望を聞き、入居後も変わらずかかりつけ医の受診・往診を支援している。管理者は看護師であり、健康管理も細かいところまで配慮している。母体の医療機関が現在移転建設中で、完成すればホームにより近くなるため、利用者及び家族は健康面・医療面でより安心できる。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	<p>(自己評価) 管理者が看護師であり、情報や気づきをその都度報告相談している。看護職員もおり、介護職員が判断出来ない場合は協力を得ている。</p>	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価) 入院時は、病院との情報交換を頻繁に行い、入院中も時間の許される限り面会に行き、容態の把握に努めている。</p>	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価) 週末期ケアは、方針として行っていないが、状態が悪化した方の今後考えられる事態に備え準備、検討している。</p> <p>(外部評価) ホームの看取りの指針について、入居時に本人及び家族に説明している。可能な限り支援に努めているが、母体法人が医療・福祉の両事業所を運営しているため、その都度家族等と相談しながら、本人の状態にあった住み替え等についても法人内で連携しながら検討している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 消防署において救命講習の参加や、各種勉強会や研修にて学んでおり、知識としては向上しているが、実際において活かせる事が出来るか、未知数だ。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 災害発生時における避難の仕方は、年2回の避難訓練にて訓練しており、職員は周知している。ホームからの避難場所の確保も各機関の指導のもと確認できているが、地域消防団や自治会との協働は、準備段階である。 (外部評価) 市を通じて他事業所への利用者受け入れ等を取り決めている。年2回、自主的及び消防署立ち会いの避難訓練を行い、利用者も参加して非常災害時に備えている。運営推進会議にて、地域との協力体制について何度か議題に取り上げて意見交換し、協力体制を築けるよう準備している。	運営推進会議の中で、地域の方から自治会等との合同の避難訓練等についての提案もあるとのことで、今後の取り組みを期待したい。また、ホームの近所に住む職員も数名いるため、緊急時の連絡体制を現実的なもののできるよう実践に備えた訓練等を行うことを望みたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) トイレの声がけの時など大きな声で言う時があり、職員の意識が足りない場合があるが、個人情報の保護には十分心掛けている。 (外部評価) 親しみを込めた会話も聞かれるが、利用者の人格を尊重した言葉かけに気をつけている。利用者の気持ちに寄り添うケアを辛抱強く行う姿も見られ、利用者を理解し「オンリーワン」な対応ができていることが伺える。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) その人のペースに合った支援を心掛けている。自己決定が出来ない方についても、じっくりと対話し思いを理解できる様接している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 本人の思いを最優先に考慮し、希望に添って支援心掛けている。時々、業務に追われ職員のペースでケアに当たる 事もあるが、利用者に理解と同意を求めている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 外出時や行事の時など、お化粧しおしゃれに気を配っており、以前お化粧が好きであった方には、ケアプランに取り入れ支援している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 利用者と共に食事を摂っている。準備や片付けも出来る方には一緒に行ってもらっており、その中で会話しながら互いが楽しく食事ができる様接している。 (外部評価) 栄養委員会に所属する職員が各ユニット2名ずつおり、メニュー等を検討している。行事メニューでは仕出し弁当を取ったり、手作りの弁当を中庭で食べるなど、利用者が食事を楽しめるよう工夫している。また、利用者と一緒におやつを作り、昔を思い出しながら楽しんで参加できる機会を作っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事やおやつ以外にも、水分の摂取を促しチェック表にて一日の水分量を確保している。夜間覚醒時には、少しずつでも飲み物を提供している。体重の増減を確認し、食事量のコントロールを心掛けているが運動不足による体重の増加が著しいかたもあり、更なる支援が求められる。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、口腔ケアを行っている。義歯の方は夜間外してもらい毎日洗浄剤を施している。職員が全て行わず、出来る能力のある方は自分でしてもらい、拒否される方についても、その必要性を説き実施できる様支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<p>(自己評価)</p> 排泄チェック表を活用し、排泄パターンの把握に努めタイミングよく排泄できる様支援している。定期の誘導だけでなく、必ず本人から聴き支援している。	
			<p>(外部評価)</p> タイミングをみて声をかけたり、頻尿の薬の効き方を確認したり、排泄の回数・量等から家族にオムツの使用量について説明するなど、排泄チェック表を活用して個別の支援に努めている。夜間も睡眠を妨げないよう配慮しながら支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<p>(自己評価)</p> 個人個人にあったセンナ茶の飲用と、適度な運動を行い排便促している。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	<p>(自己評価)</p> 毎日入浴出来る体制は整っており、その時の体調、気分に合わせて支援している。どうしても入浴を拒む方には決して無理強いせず、本人のペースに合わせている。	
			<p>(外部評価)</p> 介助が必要な利用者の場合は、安全を確保するため2名体制で入浴を支援している。入浴拒否があっても、足浴や清拭等、利用者の状態に合わせて柔軟に対応している。身体的に重度の状態になるとホームでの入浴が困難になるということは、入居の際に利用者及び家族に説明して理解を得ている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<p>(自己評価)</p> 夜間、どうしても眠れない方は、無理に寝てもらおうとせず、職員と共にお茶を飲んだりして過ごしてもらい、場合によってはソファやこたつで休んでもらっている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 個人個人の薬の説明書は、ファイルにて目の付く所に保管し、効能効果をノートに記入している。服薬時は必ず3度の確認を徹底している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 家族から、本人の趣味、嗜好を聴き、日常の生活の中から、アセスメントを行い把握に努めている。新聞を読む習慣がある人には毎朝新聞を渡したり、時代劇の好きな方には、居室のテレビで楽しんでもらったりしている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 月一度は外出計画を立て、出かけるようにしている。買い物時は可能な限り、共に出かけるよう支援しているが、主に職員の話し合いによる外出になっており、利用者の意見を反映した外出支援を行いたい。	
			(外部評価) ホームの中庭は十分な広さがあり、レクリエーション等を楽しんでいる。各委員会が合同で企画した運動会、夏祭り、外食、ホーム周辺の清掃活動等もあり、また地域の行事にも参加して、利用者が日々楽しい時を過ごせるよう取り組んでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 金銭を自分できちんと管理できる方は殆んどおらず、所持している方は一人のみである。買い物を希望されてもこちらで立替る様にしている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) あまり希望される方はいないが、希望、要望があれば支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) カーテンの開閉に気を配ったり、リビングに季節の飾りの配置や手作りのカレンダーを張ったりして季節感の演出をしている。	
			(外部評価) 管理者はホームの設計段階から関わり、経験を活かした工夫が取り入れられている。隅々にまで掃除が行き届き、清潔で居心地が良い。前庭・中庭共に広く、日当たりも良く静かである。今冬はインフルエンザの流行もあり各ユニットに空気清浄・加湿器を設置している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 自由に和室を使ってもらい、寒い時期にはこたつを出している。外部にはウッドデッキ、ベンチを配置し思い思いに使用してもらっている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 馴染みのたんすや、仏壇を持ち込んでいる方や、テレビを持ち込み独りで観ている方もいる。家族のアルバムや、思い出の品を飾っている方も多い。	
			(外部評価) 各居室に洗面台、クローゼットが設置され、すっきりと整理されている。状態にあわせて介護用ベッドも選択できるよう準備されている。利用者はそれぞれ馴染みのものを持ち込んでいる。居室に施錠したい利用者の希望にも対応している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 各居室には解るように大きく氏名を張り、混乱が生じないよう配慮している。トイレ、浴室など共有空間には解りやすく目印をしている。	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3873100162
法人名	医療法人北辰会
事業所名	グループホーム小松の里
所在地	愛媛県西条市小松町妙口甲1番地1
自己評価作成日	2009.12.25

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 ※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成22年 2月 3日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・職員が明るく元気な所。利用者と同じ目線で気持ちの把握に努めたケアに努めている。
 ・利用者同士の関係作り(毎日のレクリエーションなどの実施により)がより良いものになるよう努めている。
 ・旬の食材を使った料理や手作りおやつやの充実にも努めている。又、利用者と一緒に食材の買出しへと出掛けている。
 ・毎月、飲食店で外食や季節の草花観賞・温泉施設・工場見学等色々な所へ出掛ける機会を設けている。
 又、季節ごとの合同行事や慰問による歌謡ショー・舞踊等色々な行事を計画し楽しんでもらっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設6年目のホームであり、毎回職員全員で自己評価に取り組んでいる。管理者は、自己評価を通じ、ホームのサービス内容、職員の介護力等がレベルアップしていることを実感している。中学校の福祉体験授業を通じての交流から、毎月のホームの草引きボランティアという形に発展している。運営推進会議を通じて自治会との協力関係がより積極的に行えるよう取り組みたいと考えている。家族には毎月利用者の具体的な様子等の詳細な記録を送り、できるだけ関係が途切れないように努めており、今後も家族との交流の機会が増えるようますます工夫すると意欲的に取り組んでいる。医療法人が母体であり、地域の医療・福祉に熱心に取り組んでいるため、利用者の状態に合わせた早期の住み替え等の連携もできている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム小松の里

(ユニット名) 上通り

記入者(管理者)

氏名 黒川 夕佳 (津島 美由紀)

評価完了日 平成 22 年 1 月 23 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) ホーム独自の理念を作っている。名札の裏やフロアーへ掲示してある為、常に目を通せるようにしている。又、毎朝・夕の申し送り時に心がけを復唱し、共有と日々の取り組みに努めている。</p> <p>(外部評価) 管理者は、「温かく、さりげなく、気くばり、目くばり」という開設当初からの理念をあえて変えずに大切にしており、その思いを職員も共有してケアにあたっている。ユニットごとに利用者の心身の状態等に違いはあっても、理念に基づいたケアができるよう各ユニットで取り組んでいる。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 職員は近隣の方々と出会った際、気持ちの良い挨拶を心がけて行っている。又、広報誌や行事への案内状を配布し、気軽に立ち寄ってもらえるよう努めている。近隣の中学校のイベント(運動会や文化祭)にはいつも参加しており、中学生の福祉体験学習の取り組みで来所も頻繁にみられている。他、小学校の運動会や地域の敬老会などが中心となる。都度出掛けており交流している。</p> <p>(外部評価) 中学生の福祉体験学習の受け入れを通じて、庭の草引きのボランティアとして来てもらえるよう発展しており、利用者も楽しみにしている。また、毎年恒例の夏祭りは地域の方にも案内し、多数の参加を得ている。運営推進会議を通じて自治会行事等の情報も得るようにしているが、自治会活動が活発でなく参加には至っていない。</p>	地域全体が高齢化しているためもあって自治会活動も少なく、地域との交流機会は多いとは言えない。運営法人は医療機関と福祉施設を運営しており、代表者、管理者、職員の経験を活かした介護教室を開催する等、地域福祉の拠点として地域の活性化に貢献できるような取り組みを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げていく認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 行事への案内状を配布し、ホームでのイベントを楽しんでもらえるような機会を作っている。ホームで行う歌謡ショーへ近隣の方々が観に来られることもあった。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議では、利用者・職員やサービスの実際、取り組み状況等について報告や話し合いを行っており、出た課題は、話し合いサービス向上に活かしている。	
			(外部評価) 自治会長、公民館長、民生委員、中学校教諭、介護相談員、地域包括支援センター、家族、利用者、管理者、ユニット主任等が参加し、3か月に1回開催している。参加メンバーの変動はあるが、メンバー構成も多種にわたり率直な意見交換ができており、避難訓練についての提案や公民館行事へのお誘い等、今後活かせる話し合いがなされている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 月に一度、市の介護相談員の方の来所があり、利用者や職員と交流を持つ機会がある。運営推進会議への参加もして頂き、意見を出し合いながら協力関係が築けるよう取り組んでいる。	
			(外部評価) 市のサービス向上連絡会に参加して情報交換したり、毎月介護相談員の訪問を受け、サービス向上の取組みを積極的に行っている。管理者は市担当者と密に連携しており、協力関係が築かれている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 理解しており、身体拘束となるようなケアは行っていない。玄関は夜間のみ施錠している。	
			(外部評価) 玄関に出入りを知らせるチャイムを設置しているが、利用者の外出を拒むものではなく、外出しようとする利用者には職員が同行し、見守りながら対応している。身体拘束をしないケアについて、ホームの方針を管理者及び職員は十分理解した上で、安全面に配慮しながら自由な暮らしを支えるよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 研修や勉強会で学ぶ機会が設けられており、職員は理解できている。 日々、注意を払ったケアに努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修や勉強会で学ぶ機会が設けられている。 ロビーにパンフレットを置いてあり、いつでも活用できる体制となっている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 締結・解約又は改正等の際には、十分な説明を行い理解と納得を得ている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 利用者や家族と日頃からコミュニケーションを図る事で信頼関係が築けるよう努めている。 毎月の介護相談員の来所や運営推進会議へ利用者や家族も参加して頂くことで意見を表せる機会を設けている。 (外部評価) 運営推進会議に利用者及び家族にも参加してもらって意見を聞いているが、家族の参加者は1名と少ない。近隣地区からの利用者がいないためか面会回数が少ない傾向にあるため、利用料を毎月家持ってきてもらい、その際に意見や要望を聞くようにしている。行事の案内、運営推進会議への出席等について声かけし、家族の参加を促している。	開設当初は家族会もあったが、徐々に参加者が減少し、現在は休止状態にある。管理者も家族との関係についての取り組みを課題として感じており、皆で意見を出し合って活発な交流ができる取り組みを望みたい。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価) ユニット会やリーダー会にて職員の意見交換が行えている。 又、管理者はいつでも意見や提案を聞く体制でいる。</p> <p>(外部評価) 職員の意見や提案等は、毎月の法人幹部会で管理者から伝える機会がある。全職員が年間目標を立て、自己評価して給与等に反映させている。職員から相談等があれば、個別面談にて対応しており、話しやすいよう配慮している。「行事・レクリエーション・広報・園芸・環境・栄養」と全職員が各委員会を担当し、計画・実施に取り組んでいる。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価) 年間の自己目標の設定や個人面談があり、各自が向上心を持って働けるよう取り組みがある。</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価) 個々のレベルに応じた研修参加の機会が設けられている。又、希望する研修にも行けるよう案内があり参加出来ている。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価) 相互訪問等の研修参加により交流する機会がもてている。 研修での内容は定期的な勉強会で各自が発表し共有しており、サービスの向上につなげていけるよう話し合い取り組んでいる。</p>	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価) 利用前の面接で本人と話す機会がある。十分話しを聞くことで、不安なく生活がスタートしていける様に努めている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 家族とも同様に利用前の面接で話す機会があり、関係作りに努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 十分考慮している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 利用者と一緒に過ごす事で心が安らぐことがある。毎日、職員と共に家事仕事やゲーム等のレクリエーションをすることで学ぶ事や支えあう関係作りが出来るように感じる。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 面会時には近況報告を行い、話しする機会をもつようにしている。又、イベントへの案内を行い、家族と一緒に食事や催し物を観賞して楽しんで頂く機会を作っている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 自由に面会出来るようになっており、支援していきたいと考えている。 (外部評価) 開設以来、長期にわたりホームでの生活を送っている利用者も全体の約3分の1となっており、ユニット間の交流を通じて馴染みの関係ができ、日常的に行き来している。利用者から希望があれば墓参り、買い物等にも可能な限り対応している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者同士の関係を理解したケアに努めている。皆でレクリエーションを行う中で関わり合い支え合う場面をみることや、仲の良い方同士が入浴できるよう支援を行っている。又、リビングの座る位置の配慮も行っている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 入院となった場合には個人的にお見舞いに行くことはある。必要に応じて努めていきたいと思っている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 本人の思いや意向の把握に努めている。毎月ユニット会にて職員間で意見を出し合い本人本位の暮らしが出来るよう検討している。 (外部評価) 職員は日々の関わりの中で把握した利用者の特徴的なできごとや意向・希望等を「オンリーワンメモ」として記録し、毎月のユニット会で意見を出し合い、共有に努めている。利用者の担当職員は時々ローテーションして担当を変え、ケアの方向性が偏らないよう配慮している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居前にある程度は情報をもらっているが、入居後も利用者や家族から会話の中で聞き出し、把握に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 毎日の記録として、熱計表・利用者の生活記録・介護者の観察記録・オンリーワンメモ・ケアプランの実施記録を取り入れ活用しており、日々の現状把握に努め、共有できるようになっている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	<p>(自己評価) 毎月のユニット会にて、利用者の現状をふまえ、利用者の望んでいることを考慮し、より良く暮らしていく為の計画となるよう意見を出し合い作成している。</p> <p>(外部評価) 朝・夕にユニット合同の申し送りを行い、全職員が利用者把握できるようにしている。利用者の担当者は、サービスの実施状況を「ケア行動実施記録・特記事項」として毎月家族に報告し、状態を把握してもらっている。その上で3か月に1回介護計画書を送り、意向や希望を記入してもらって次の計画に反映させている。</p>	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	<p>(自己評価) 個別の生活記録・オンリーワンメモ・介護計画の実施記録を記録にしており、情報の共有、介護計画の見直しに活かしている。</p>	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	<p>(自己評価) 柔軟な支援を行っている。</p>	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	<p>(自己評価) 民生委員やボランティア、警察、消防、教育機関とさまざまな地域資源と協働しながら暮らしの支援を行っている。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 事業所の母体が病院な為、緊急時はすぐに適切な医療 が受けられるようになっている。又、週に1度医師の 往診がある。 (外部評価) 利用者及び家族の希望を聞き、入居後も変わらずか かりつけ医の受診・往診を支援している。管理者は看護 師であり、健康管理も細かいところまで配慮してい る。母体の医療機関が現在移転建設中で、完成すれば ホームにより近くなるため、利用者及び家族は健康 面・医療面でより安心できる。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 管理者が看護師の為、常時連絡を取り合い支援に努め ている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 病院との関係作りは出来ている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 終末期ケアは行っていないが当事業所で生活が可能 な限り支援に努めている。今後の変化に備えて他機関へ の申請をされている方もいる。都度、家族とのやりと りはある。 (外部評価) ホームの看取りの指針について、入居時に本人及び家 族に説明している。可能な限り支援に努めているが、 母体法人が医療・福祉の両事業所を運営しているた め、その都度家族等と相談しながら、本人の状態に あった住み替え等についても法人内で連携しながら検 討している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 研修や勉強会、救命救急講習に全ての職員が定期的に参加し学ぶ機会が設けられている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 半年に一度防火・避難訓練を実施している。避難場所の確保は出来ている。 (外部評価) 市を通じて他事業所への利用者受け入れ等を取り決めている。年2回、自主的及び消防署立ち会いの避難訓練を行い、利用者も参加して非常災害時に備えている。運営推進会議にて、地域との協力体制について何度か議題に取り上げて意見交換し、協力体制を築けるよう準備している。	運営推進会議の中で、地域の方から自治会等との合同の避難訓練等についての提案もあるとのことで、今後の取り組みを期待したい。また、ホームの近所に住む職員も数名いるため、緊急時の連絡体制を現実的なものができるよう実践に備えた訓練等を行うことを望みたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 十分に注意した対応に努めている。慣れ親しみが出てくると難し (外部評価) 親しみを促した会話も聞かれるが、利用者の人格を尊重した言葉かけに気をつけている。利用者の気持ちに寄り添うケアを辛抱強く行う姿も見られ、利用者を理解し「オンリーワン」な対応ができていることが伺える。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 自己決定出来るような言葉かけをするように心がけている。又、本人の意見を尊重し、個々の能力に合った支援が出来るように努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 介護計画により、家事仕事など個々に毎日実施しているものや、皆で行うレクリエーションを取り入れていたり、こちらの働きかけにより日々の生活が豊かなものになるように対応に努めている。その中で、本人の意思や希望を聞き取り入れていくことはある。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) その人らしい身だしなみやおしゃれが出来るよう支援している。イベント時に、お化粧を行うと喜んでもらえている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 職員も一緒に食事を摂り、準備や片付けも出来る利用者と一緒にいる。毎食後自発的に食器を洗浄してくれている方もいる。献立は個々の好みに合わせた物を取り入れる事もあり工夫している。 (外部評価) 栄養委員会に所属する職員が各ユニット2名ずつおり、メニュー等を検討している。行事メニューでは仕出し弁当を取ったり、手作りの弁当を中庭で食べるなど、利用者が食事を楽しめるよう工夫している。また、利用者と一緒におやつを作り、昔を思い出しながら楽しんで参加できる機会を作っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事・水分摂取量のチェック表があり、1日のトータル量が確認出来ている。一人ひとりに合った好みの飲み物を出したり、時間をかけてゆっくりと摂取してもらえるように働きかけに努めている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、口腔ケアの声掛けや介助の支援を行っている。義歯は毎日ボリデントで洗浄を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<p>(自己評価)</p> 排泄チェック表を活用しており、個々の排泄パターンの把握に努めている。定期的な誘導と本人のサインに気付いて誘導を行うことで気持ち良く排泄出来るよう支援している。	
			<p>(外部評価)</p> タイミングをみて声をかけたり、頻尿の薬の効き方を確認したり、排泄の回数・量等から家族にオムツの使用量について説明するなど、排泄チェック表を活用して個別の支援に努めている。夜間も睡眠を妨げないよう配慮しながら支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<p>(自己評価)</p> 一人ひとりにあったセンナ茶の量と濃度で便秘予防に努めている。 便秘時には特に身体を動かす働きかけも行っている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	<p>(自己評価)</p> 入浴は毎日あり、個々の体調や希望、タイミングの良い時に合わせて声掛けを行い支援している。意思確認の難しい方の対応はどうしても職員のペースになってしまうところがある為、注意を払っている。	
			<p>(外部評価)</p> 介助が必要な利用者の場合は、安全を確保するため2名体制で入浴を支援している。入浴拒否があっても、足浴や清拭等、利用者の状態に合わせて柔軟に対応している。身体的に重度の状態になるとホームでの入浴が困難になるということは、入居の際に利用者及び家族に説明して理解を得ている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<p>(自己評価)</p> 日中は出来るだけ離床して過ごしてもらえよう対応に努めているが、利用者の状況や様子を観て休息する時間を取り入れている事もある。マイペースに居室にて休む時間をもたれている方もいる。夜間、寝付けないような時はしばらく添い寝をする事で入眠し安眠できている方もいる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 個々の処方箋をファイルにまとめており、いつでも確認出来るようにしている。又、服薬の変更時には申し送りノートを活用し共有できるようにしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 家事仕事であったり、植物の管理等、個々が得意とする事を役割としていたり、職員と散歩や将棋などの趣味や余暇を取り入れた支援を出来るように努めている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 毎月、外食や季節の草花観賞等に外出する機会を作っている。利用者に出掛けたい場所を問う事もある。	
			(外部評価) ホームの中庭は十分な広さがあり、レクリエーション等を楽しんでいる。各委員会が合同で企画した運動会、夏祭り、外食、ホーム周辺の清掃活動等もあり、また地域の行事にも参加して、利用者が日々楽しい時を過ごせるよう取り組んでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) お金の管理が行える方は所持されており、職員と買い物に出掛ける事もある。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 希望があれば支援していきたいと思っている。毎年利用者個々の写真を添えた年賀状を作り、利用者一言づつ書き加えてもらえるよう取り組みもしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 24H換気を使用。定期的に室温チェックと空気の入替えをし、利用者の状況に応じた空調の配慮を行っている。今年の冬より加湿器の使用を始める。TV音や日差しには注意を払い対応している。リビングには装飾品や毎月手作りカレンダーを飾り、季節を感じる事ができるよう工夫している。</p> <p>(外部評価) 管理者はホームの設計段階から関わり、経験を活かした工夫が取り入れられている。隅々にまで掃除が行き届き、清潔で居心地が良い。前庭・中庭共に広く、日当たりも良く静かである。今冬はインフルエンザの流行もあり各ユニットに空気清浄・加湿器を設置している。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) 冬は和室にこたつを置きいつでも使用できるようにしている。ベランダやウッドデッキ、中庭にはベンチを置き、自由にくつろげる場所があり、利用されている。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 本人が使い慣れた家具や置物・装飾品や家族の写真などを持ち込まれており、一人ひとりが好みの場所作りが出来るよう工夫している。</p> <p>(外部評価) 各居室に洗面台、クローゼットが設置され、すっきりと整理されている。状態にあわせて介護用ベッドも選択できるよう準備されている。利用者はそれぞれ馴染みのものを持ち込んでいる。居室に施錠したい利用者の希望にも対応している。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 建物内、手すりの設置や段差がない造りになっている。又、台所や洗面台の高さは使いやすい工夫がなされており、活動の場となっている。居室の入り口には名札と写真を飾り、トイレ前には目印を掲示し工夫している。</p>	